

富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
第1回人材育成専門部会（議事概要）

日 時 平成 25 年 1 月 22 日（火） 13:30～15:00

場 所 県民会館 302 号室

- 議 事
- （1）組織事項
 - （2）中小企業の振興と人材の育成等に関する基本条例について
 - （3）中小企業振興のための人材育成施策等について
 - （4）その他

委員からの主な意見

- ・ 若者が正規社員にならず、キャリアを積まないまま進んでいくことが気にかかる。フリーター、ニートなどと呼ばれる若者の雇用対策にもっと取り組む必要がある。
- ・ 富山県においては、ニート、フリーターの構成比は低いということだが、これをもっと減少させるための対策も今後の検討課題になる。これから、若者の正規雇用率をいかに高めていくかが大事。
- ・ フリーターに、サポステや訓練、手当などの制度について周知するのは難しく、フリーター対策の実効性を高めるのは、非常に困難。そのため、ツイッターやブログなどを活用して、情報発信の効果を高める必要がある。
- ・ 県内の高校では、ニート、フリーターについて、ほとんど問題になっていない。高校生自身が、正規で働かなければならないと考えており、また、ほとんどが県内企業での就職を志望している。
- ・ 公共職業訓練の定員をもう少し増やすことはできないのか。
- ・ もう少し、中小零細企業が気軽に参加できる研修等が必要ではないか。
- ・ 中小企業では、企業内での訓練・教育ができていないのが現実であり、人材を育成するためにも、しっかりとした体制や仕組みを作っていくことが必要。
- ・ 中小零細企業では、社員の教育がなかなかできないので、団体で行えるような制度について検討することも必要ではないか。また、現在行われている教育訓練は、技能、技術に偏っている面がある。マネジメント関係の能力が求められる職種もあり、そのような教育訓練も行う必要がある。

- これからは、先端産業をどのように育成していくかが大事であり、その観点からすれば、産業構造を高度化するための職業訓練、つまり、極めて質の高い労働者をつくっていくための努力を徹底的に行う必要がある。
- 一方、社会構造の変化に適応していくための職業訓練も必要。介護や社会福祉分野は、雇用創出能力が非常に高く、そういった分野に人を従事させるための職業訓練もとても重要だと思う。
- 零細企業の経営者からは、新規学卒者をなかなか確保できないとの声を聞いている。また、事業承継が悩みとの声も聞く。第二創業等も含め、中小企業の経営を継続していくという観点からの検討も必要だと考える。
- 県内の雇用状況は全国トップクラスだが、学生の手、安定志向により、中小企業との雇用のミスマッチが生じている。給与だけでなく、福利厚生も含めて、雇用の質の向上、労働条件の改善を行う必要がある。
- 経営者の声として、せっかく若者を採用しても、育てる前に離職してしまうということも聞く。若者の定着をどう図るかが課題。学生時代からの意識づけのほか、就職してからは、同じ世代の人といろいろな意見交換をする中で、自分自身を見つめていく機会をつくることも必要ではないか。
- 県内に多くある中小企業では、どのような人材を求めているのか、今の若者の何が問題なのか、どのような人材を育てていけばいいのかなどの分析が必要ではないか。
- 県内の女性の就業率は全国トップクラスであるにもかかわらず、管理職登用が進んでいないなどの課題もある。また、結婚、出産、育児、介護などの理由により離職する女性も多い。
- 14歳の挑戦や高校生のインターンシップも進んでいるが、人づくりのためには、小学生の頃から、仕事に夢やあこがれを持ってもらうことが大事。
- 一時期、IT技術を活かして働くテレワークという働き方が注目された。これからも、いろいろな雇用の形態について検討していくことも必要ではないか。